

# スパークス・プレミアム・日本超小型株式ファンド

追加型投信／国内／株式



愛称 **価値発掘**

■投資信託説明書(交付目論見書)のご請求、お申込みは



商号等：東海東京証券株式会社  
 金融商品取引業者 東海財務局長（金商）第140号  
 加入協会：日本証券業協会、一般社団法人金融先物取引業協会  
 一般社団法人第二種金融商品取引業協会

■設定、運用は

## スパークス・アセット・マネジメント株式会社

商号等：スパークス・アセット・マネジメント株式会社  
 金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第346号  
 加入協会：日本証券業協会、一般社団法人投資信託協会  
 一般社団法人日本投資顧問業協会  
 一般社団法人第二種金融商品取引業協会

当ファンドは、マザーファンド受益証券への投資等を通じて、株式などの値動きのある有価証券に投資しますので、ファンドの基準価額は変動します。従って、投資者の皆さまの投資元金は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元金を割り込むことがあります。本資料は、スパークス・アセット・マネジメントが作成した販売用資料であり、法令に基づく開示書類ではありません。

お申込みの際は、「投資信託説明書(交付目論見書)」を必ずご覧ください。

# 当ファンドの特徴

## 1. 日本の上場株式のうち、マイクロ・キャップ銘柄(以下、「超小型株式」といいます。)を中心に投資いたします。

- 日本の金融商品取引所に上場(これに準じるものを含みます)している株式のうち、時価総額において下位2%以下に属している銘柄を中心に投資し、値上がり益の獲得を目指します。
- 超小型株式は、銘柄数が豊富で、割安な銘柄も多く、多数の投資機会が存在しています。

## 2. スパークスの徹底したボトムアップ・リサーチで銘柄を選別いたします。

- スパークスでは、1989年創業以来、中小型株式の調査を行っており、豊富な経験と情報を有しています。
- スパークスでは、企業の価値は、経営者に依存する部分が多く、経営者との面談を通じたボトムアップ・リサーチが有効と考えます。

## 3. 信託財産の運用成果の評価に際して、MSCI Japan Micro Cap 指数(配当込み)(以下、「参考指数」といいます。)を参考とします。

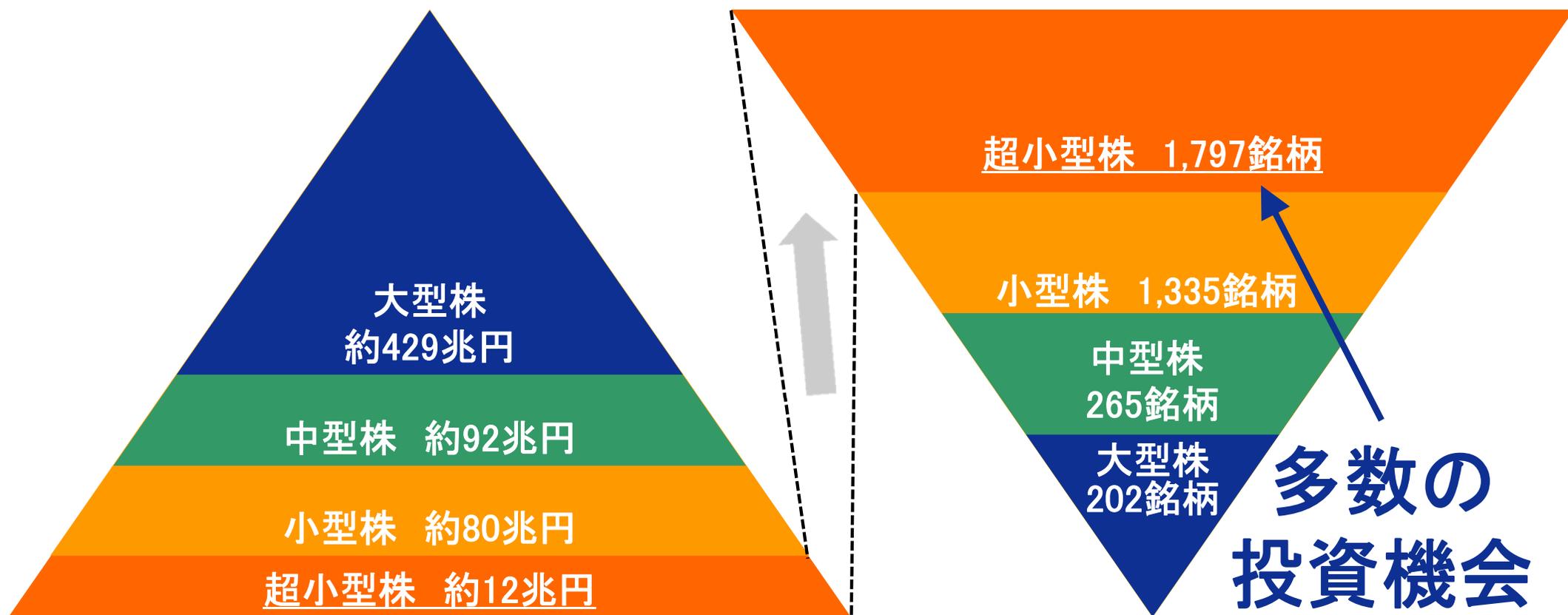
- ただし、参考指数への追従を意図した運用を行いません。

※MSCI Japan Micro Cap 指数(配当込み)は、MSCI Inc.が開発した株価指数です。また、MSCI Japan Micro Cap 指数に関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、MSCI Inc.に帰属します。

# 超小型投資戦略の投資ユニバース

## ▶ 日本株式市場の規模別時価総額と銘柄数

- 超小型株式は、銘柄数が豊富で、割安な銘柄も多く、多数の投資機会が存在しています。



■ 大型株	(時価総額合計の上位70%以上	: 時価総額約5,989億円以上の企業)
■ 中型株	(時価総額合計の上位70%~85%以上	: 時価総額約1,893億円以上、約5,989億円未満の企業)
■ 小型株	(時価総額合計の下位2%~15%	: 時価総額約167億円以上、約1,893億円未満の企業)
■ <u>超小型株</u>	(時価総額合計の下位0%~2%	: <u>時価総額約167億円未満の企業)</u>

# なぜ、超小型株式なのか

## 1. 景気回復局面での株価上昇率が高い

- 景気回復局面での利益成長率が高く、相対的に好パフォーマンスになる傾向がある。

## 2. 割安な株価水準、高配当

- 企業規模(時価総額)が小さいため、投資家に見過ごされがちであり、株価評価(バリュエーション)は、割安に放置されている傾向がある。また、高配当利回りの企業も多い。

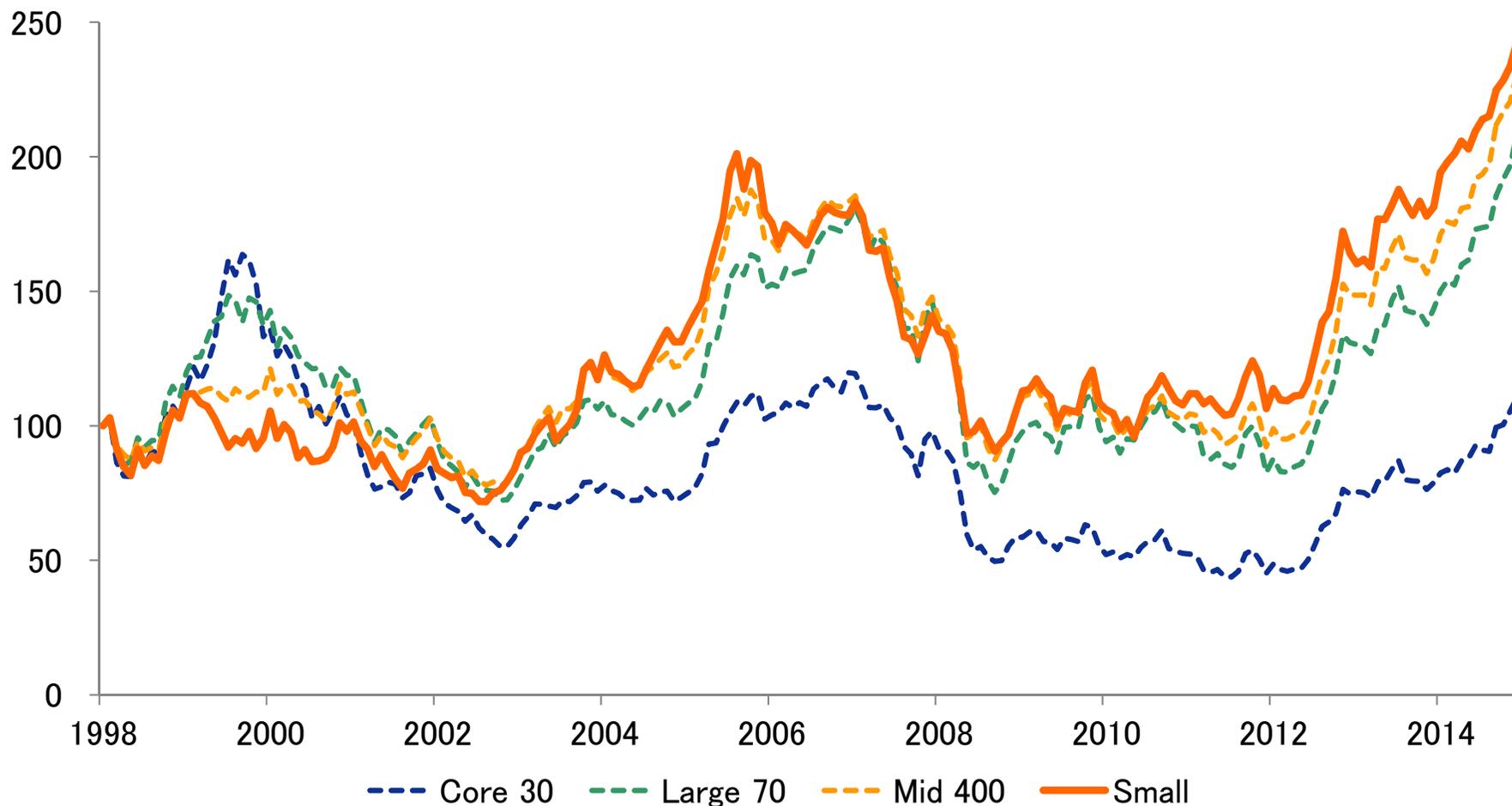
## 3. 隠れた高い技術や新サービス

- まだ、知られていないニッチ分野における高い技術や先見性のある新しいサービスなど、これから高く評価される可能性のあるビジネスモデルが存在する。

# 企業規模別の株価指数のパフォーマンス

▶ 企業規模が小さい指数は、市場上昇局面で、相対的に高いパフォーマンスを上げている。

## 企業規模別の株価指数の推移



※ TOPIX Core 30  
※ TOPIX Large 70  
※ TOPIX Mid 400  
※ TOPIX Small

..... TOPIX算出対象のうち、時価総額、流動性の特に高い30銘柄  
..... TOPIX Core 30について時価総額、流動性の特に高い70銘柄  
..... TOPIX Large 70について時価総額、流動性の特に高い順400銘柄  
..... TOPIXの算出対象から、TOPIX Core 30、TOPIX Large 70、TOPIX Mid 400の構成銘柄を除いた銘柄

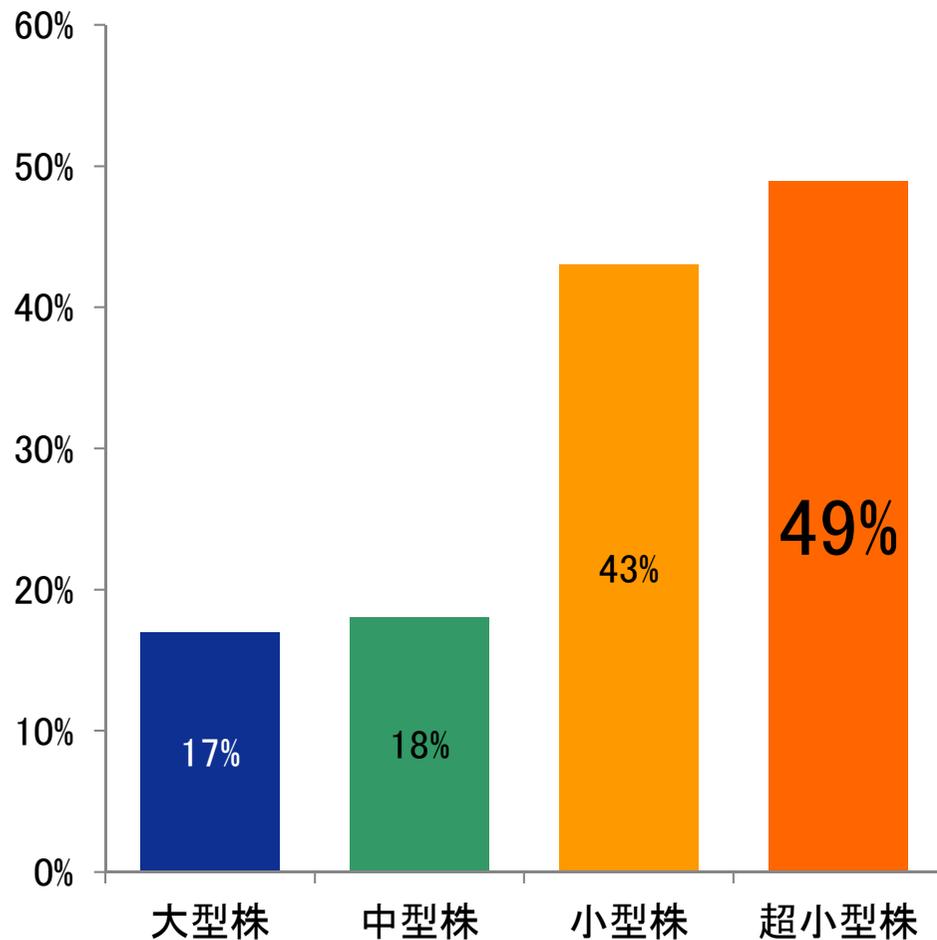
出所: FactSet (1998年6月末～2015年6月末、1998年6月末を100として指数化)

本資料の最後に付記しております追記を必ずお読み下さい。

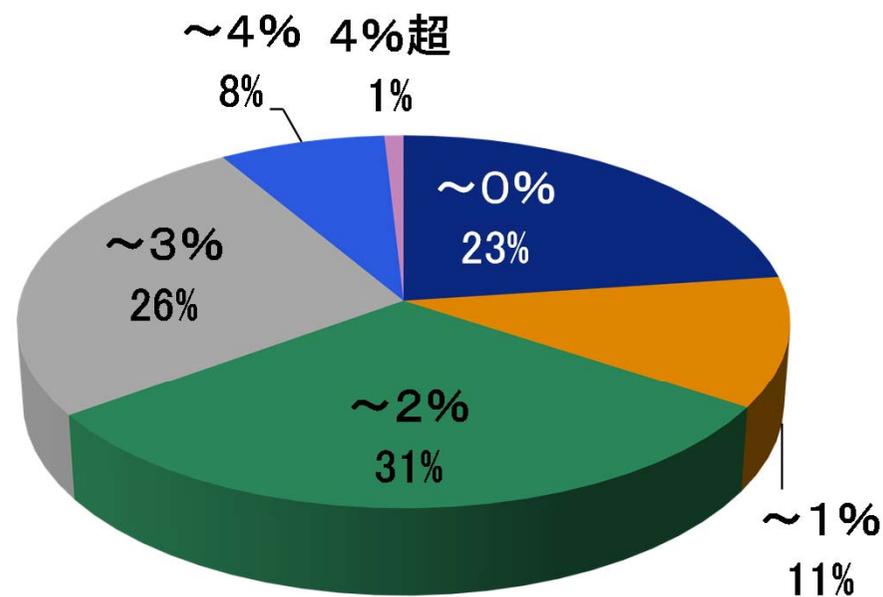
# 割安な銘柄が多数存在する超小型株式

▶ 超小型株式には、多数の割安銘柄、高配当銘柄が存在する。

## PBR※が1倍以下の企業の割合



## 超小型株式の配当利回り分布



※ 大型株、中型株、小型株、超小型株の定義については、3ページを参照ください。

※ PBR=株価純資産倍率

出所(左図): スパークス・アセット・マネジメント、野村総研、2015年6月末現在

出所(右図): 東洋経済新報社(2010年6月末、対象:1790銘柄)

本資料の最後に付記しております追記を必ずお読み下さい。

# 隠れた高い技術や新サービスを有する企業例

▶ 超小型株式には、まだ、気づかれていない高い技術や新しいサービスを有する企業が数多く存在する。

## パンチ工業(6165)

### 【会社概要】

金型部品国内2位。

中国では8,000社の顧客基盤を持ちシェアトップ級。

### 【投資の着眼点】

2012年に株式公開(IPO)。

超小型株式のため機関投資家が参加しづらく、株価低迷。

高い技術力と厚い顧客基盤が、もっと評価されるべき。

## ワールドホールディングス(2429)

### 【会社概要】

製造派遣、業務請負が主力。

九州での携帯電話販売店やマンション開発販売など。

### 【投資の着眼点】

リーマンショック後、株価は大きく低迷。

派遣法改正による事業拡大期待。

景気回復からマンション開発販売が復活。



※ 上記はあくまでも当ファンドの理解を深めていただくためのご参考資料であり、特定の有価証券等を推奨しているものではありません。  
また、当該実績は過去のものであり、将来の動きを示唆・保証するものではありません。

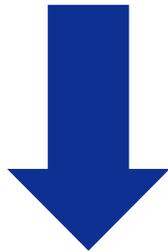
出所: FactSet (左図: 2012年12月20日(株式上市)~2015年6月末、2012年12月20日の初値を100として指数化)

(右図: 2010年6月末~2015年6月末、2010年6月末を100として指数化)

本資料の最後に付記しております追記を必ずお読み下さい。

# 投資哲学と投資アプローチ

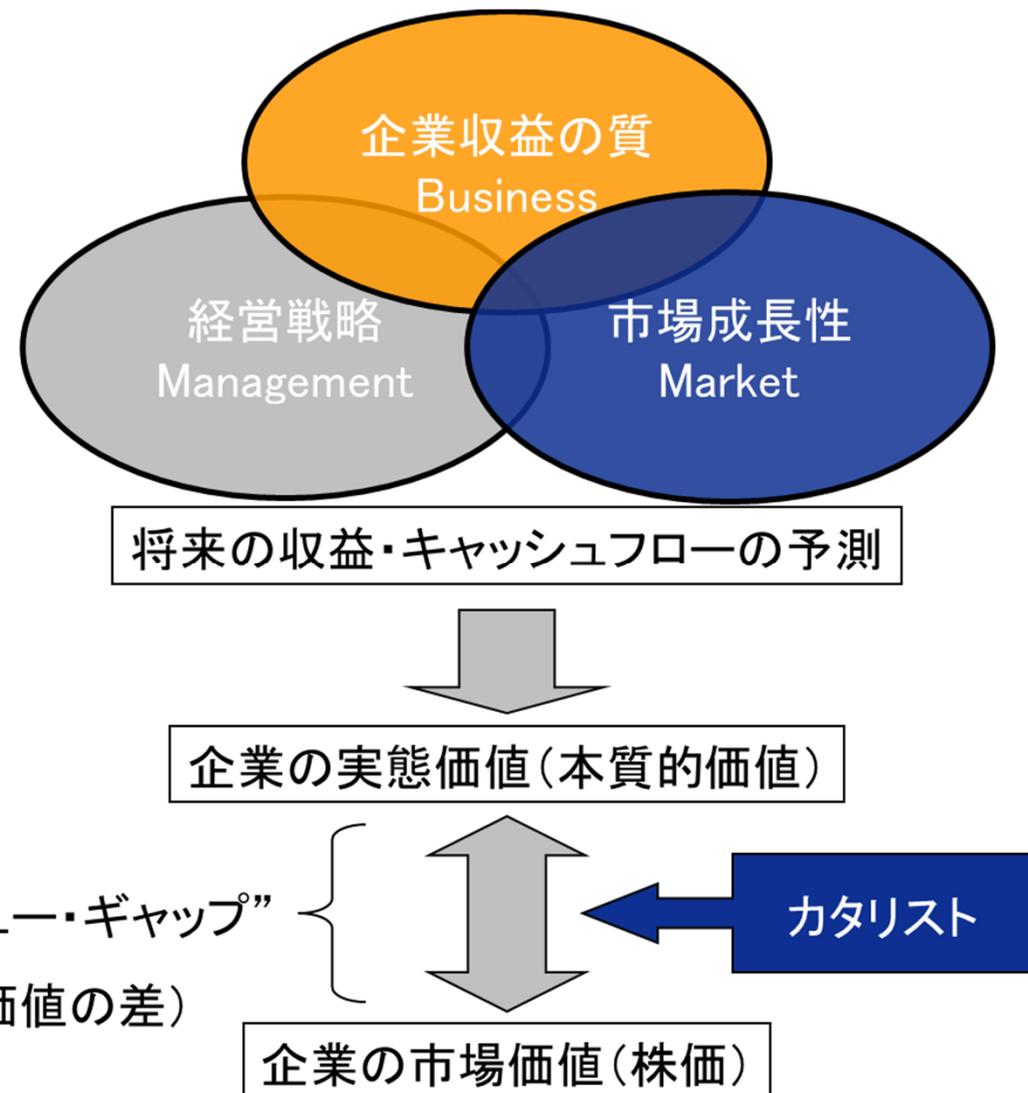
「マクロはミクロの集積である」



徹底した現場リサーチ重視  
(ボトムアップ・リサーチ)

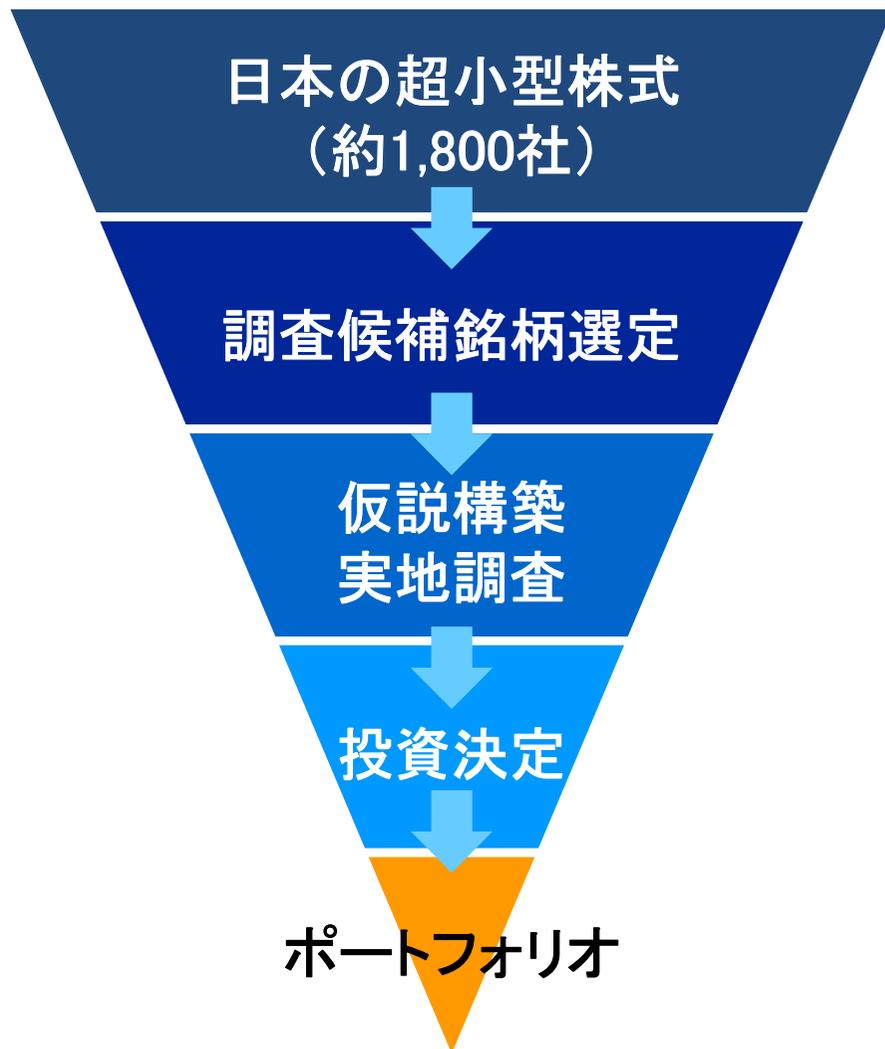
創業以来一貫した投資哲学

年間約2,000回の企業訪問※



※ 2014年実績  
出所: スパークス・アセット・マネジメント  
本資料の最後に付記しております追記を必ずお読み下さい。

# 投資プロセス



## ①企業訪問や調査活動を通じて、投資仮説や投資アイデアを検討

企業訪問による調査。決算書類(有価証券報告書、決算短信)、アニュアルレポート、プレスリリース、経営者の書物など、あらゆる関係書類・書物を徹底的に調査。

## ②3つの着眼点から企業の実態価値を計測

経営者との面談等を通じたボトムアップ・リサーチにより、3つの着眼点(企業収益の質、市場成長性、経営戦略)から、経営者の哲学や企業経営に関する考え方などを徹底的に調査。

## ③実態価値と市場価値(株価)の差、バリュー・ギャップを計測

将来のキャッシュフローや純資産価値などから、バリュー・ギャップを計測し、投資決定。

流動性の低い銘柄へ実質的に投資するため、市場動向やファンドの資金動向等によっては、前述のような運用ができない場合があります。

# 当ファンドの目的と仕組み

## ▶ファンドの目的

当ファンドは、主としてスパークス・日本株・マイクロ・キャップ・マザーファンド(以下「マザーファンド」といいます。)を通じて、日本の株式に投資し、信託財産の中長期的な成長を目指して、積極的な運用を行います。

## ▶ファンドの仕組み

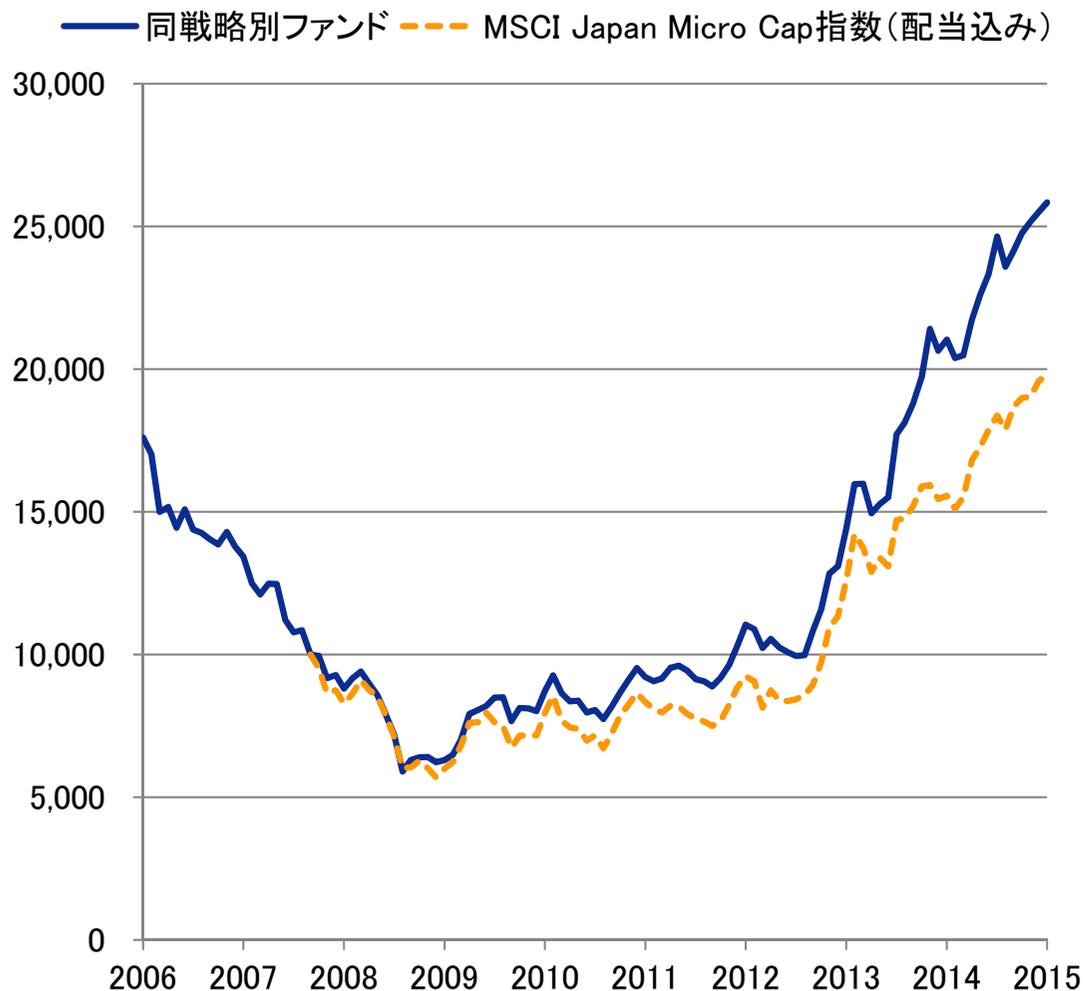
ファミリーファンド方式※により、金融商品取引所上場株式への実質的投資を行います。

※ ファミリーファンド方式とは、投資者の皆さまからお預かりした資金をまとめてベビーファンドとし、その資金をマザーファンドに投資することにより、その実質的な運用をマザーファンドにて行う仕組みです。



# 同戦略別ファンドの運用実績(ご参考)

▶ 2006年3月31日～2015年3月31日



	同戦略別 ファンド	MSCI Japan Micro Cap指数 (配当込み)	差異
2008年	-35.7%	-34.0%	-1.7%
2009年	26.9%	13.9%	13.0%
2010年	6.7%	9.8%	-3.1%
2011年	6.1%	-2.0%	8.1%
2012年	25.7%	26.1%	-0.4%
2013年	70.5%	63.7%	6.8%
2014年	25.5%	19.5%	6.0%
2015年	4.4%	4.3%	0.1%

※ 2015年は3月末時点

	同戦略別 ファンド	MSCI Japan Micro Cap指数 (配当込み)	差異
1年間	22.8%	27.2%	-4.4%
3年間	133.8%	114.1%	19.7%
5年間	196.7%	149.4%	47.3%
リターン	14.7%	11.3%	3.4%
リスク	18.4%	19.9%	-1.5%

※ リターン、リスクは年率ベース (2007年11月30日以降)

※ 同戦略別ファンドの設定は2006年3月ですが、上記グラフは参考指数の算出開始日(2007年11月30日)を10,000として計算しています。

※ 参考指数は同戦略別ファンドのベンチマークではございません。

※ 上記は、当ファンドと同戦略別ファンドの運用実績であり、実際の運用とは異なります。

※ 当該実績は過去のものであり、将来の運用成果等をお約束するものではありません。

※ 基準価額は信託報酬・実績報酬控除後です。

出所: FactSet、スパークス・アセット・マネジメント(2007年11月30日を10,000として指数化)

本資料の最後に付記しております追記を必ずお読み下さい。

# 同戦略別ファンドのポートフォリオ(ご参考)

## ▶ 2015年3月末時点

純資産総額／銘柄数／ウェイト	
ファンド総資産	9.52 億円
株式	84.05%
短期資金他	15.95%
銘柄数	46
組入れ上位業種(東証33業種)	
ウェイト(対純資産総額)	ウェイト
機械	13.74%
電気機器	11.77%
卸売業	9.90%
不動産業	7.31%
情報通信業	7.21%
建設業	6.30%
小売業	5.04%
その他製品	4.58%
サービス業	4.11%
非鉄金属	3.29%
合計	73.27%
組入れ時価総額分布	
ウェイト(対純資産総額)	ウェイト
大型株:上位70%	0.00%
中型株:大型以下15%	0.00%
小型株:下位15%	8.81%
超小型株:下位2%	75.24%
合計	84.05%

## 組入上位10銘柄

証券コード	企業名	市場	業種	時価総額(億円)	ウェイト
7609	ダイトエレクトロン	東証1部	卸売業	77	3.43%
6328	荏原実業	東証1部	機械	96	3.36%
1827	ナカノフードー建設	東証1部	建設業	140	3.35%
6800	ヨコオ	東証1部	電気機器	147	3.34%
6785	鈴木	東証1部	電気機器	76	2.96%
1723	日本電技	ジャスダック	建設業	93	2.94%
3193	鳥貴族	ジャスダック	小売業	141	2.86%
7856	萩原工業	東証1部	その他製品	156	2.80%
8940	インテリックス	東証2部	不動産業	72	2.73%
3763	プロシップ	ジャスダック	情報・通信業	91	2.70%

## 組入れ市場分布

ウェイト(対純資産総額)	ウェイト
東証1部	46.86%
東証2部	13.24%
東証マザーズ	0.80%
JQスタンダード	23.15%

## 時価総額

時価総額(億円)	ウェイト
150億円以上	13.02%
100億円以上150億円未満	20.38%
50億円以上100億円未満	43.65%
50億円未満	7.01%

※ 上記は、当ファンドと同戦略別ファンドの運用実績であり、実際の運用とは異なります。

※ ウェイトは対純資産の数値となります。

※ データ等は過去のものであり、今後の成果を保証・約束するものではありません。

出所:スパークス・アセット・マネジメント作成

本資料の最後に付記しております追記を必ずお読み下さい。

# SPARXグループの主要な組織と概要と代表者略歴

## スパークス・グループ株式会社

- 創業 1989年7月
- 資本金 85億1,700万円（2015年3月末現在）
- 役職員数 144名※1,2
- 代表取締役社長 阿部 修平
- 運用資産残高 約9,999億円（2015年6月末）

一貫した投資哲学と運用プロセスを実践する独立系運用会社です。スパークスは1989年の創業以来、「マクロはミクロの集積である」という投資哲学の下、ボトムアップ・リサーチを行っております。スパークス・グループ株式会社はJASDAQ市場（銘柄コード：8739）に2001年12月に運用会社として、初めて上場致しました。

## スパークス・アセット・マネジメント株式会社

- 設立 2006年4月
- 資本金 25億円（2015年3月末現在）
- 役職員数 77名※1
- 運用資産残高（日本） 約5,720億円（2015年6月末）
- 運用調査体制

### 運用調査部門

ファンドマネージャー兼アナリスト 10名  
アナリスト 5名  
トレーダー 2名



## 阿部修平 略歴

スパークス・グループ株式会社 代表取締役社長、グループCIO

スパークス・アセット・マネジメント株式会社 代表取締役社長

- ▶ 1978年 上智大学経済学部卒業
- ▶ 1980年 バブソンカレッジでMBA取得。帰国後、株式会社野村総合研究所入社。企業調査アナリストとして日本株の個別企業調査業務に従事。
- ▶ 1982年 ノムラ・セキュリティーズ・インターナショナル(ニューヨーク)に出向し、米国機関投資家向けの日本株のセールス業務に従事。
- ▶ 1985年 アベ・キャピタル・リサーチを設立(ニューヨーク)。ジョージ・ソロス氏のクワンタム・ファンド等、欧米資金による日本株の投資運用・助言業務を行うとともに、欧米の個人資産家の資産運用を行う。
- ▶ 1989年 帰国後、スパークス投資顧問(現スパークス・グループ株式会社)を設立、代表取締役社長に就任(現任)。
- ▶ 2005年 ハーバード大学ビジネススクールでAMP取得。

※1 役職員は2015年6月末現在

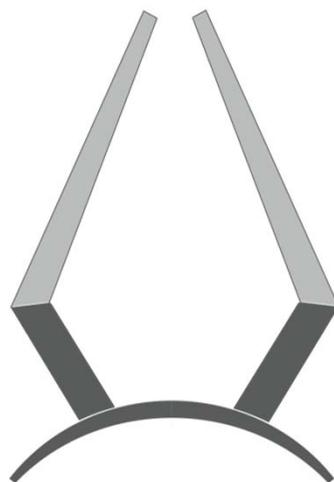
※2 関係会社において兼職している役職員数の調整後の数値

出所:スパークス・アセット・マネジメント

本資料の最後に付記しております追記を必ずお読み下さい。

# 最優秀運用会社(株式部門)2年連続受賞

- ▶ スパークス・アセット・マネジメント株式会社が、トムソン・ロイター選定による「リップパー・ファンド・アワード・ジャパン2015(最優秀運用会社株式部門)」を、対象運用会社39社の中から受賞しました。



THOMSON REUTERS  
LIPPER FUND AWARDS 2015  
JAPAN

「リップパー・ファンド・アワード・ジャパン 2015」は、世界各都市で開催している「Lipper Fund Awards」プログラムの一環として行われ、日本において販売登録されている国内および外国籍ファンドを対象に、優れたファンドとその運用会社を選定し、表彰するものです。選定/評価に際しては、リップパー独自の投資信託評価システム「リップパー リーダー レーティング システム (リップパー リーダーズ、Lipper Leaders)」の中の「コンシスタントリターン(収益一貫性)」を用いています。「リップパー・ファンド・アワードに関する情報は、投資信託の売買を推奨するものではありません。リップパー・ファンド・アワードは、過去のファンドのパフォーマンスを分析したものであり、過去のパフォーマンスは将来の結果を保証するものではないことにご留意ください。評価結果は、リップパーが信頼できると判断した出所からのデータおよび情報に基づいていますが、その正確性、完全性等について保証するものではありません。」

# 実績報酬について

計算期間を通じて毎日、前営業日の基準価額(1万口当たり)がハイ・ウォーター・マークを上回った場合、当該基準価額から当該ハイ・ウォーター・マークを控除して得た額に10.8%(税抜10%)の率を乗じて得た額に、計算日における受益権総口数を乗じて得た額を計上します。

実績報酬(期中に一部解約が行われた場合には、当該一部解約口数に相当する分の実績報酬額を含みます。)は、毎計算期間末、または信託終了のとき信託財産中から委託会社に支弁するものとします。なお実績報酬は全額委託会社が受取るものとします。

実績報酬

= (

前営業日の  
基準価額

-

ハイ・ウォーター・  
マーク

)

×

10.8%  
(税抜10%)

## ■ハイ・ウォーター・マークについて

(1) 設定日から最初の計算期末まで：10,000円(1万口当たり)

(2) (1)以降：毎計算期末において、前営業日の基準価額が、

その時点のハイ・ウォーター・マークを上回った場合

⇒ 翌日以降のハイ・ウォーター・マークは、当該基準価額に変更されます。

その時点のハイ・ウォーター・マークを下回った場合

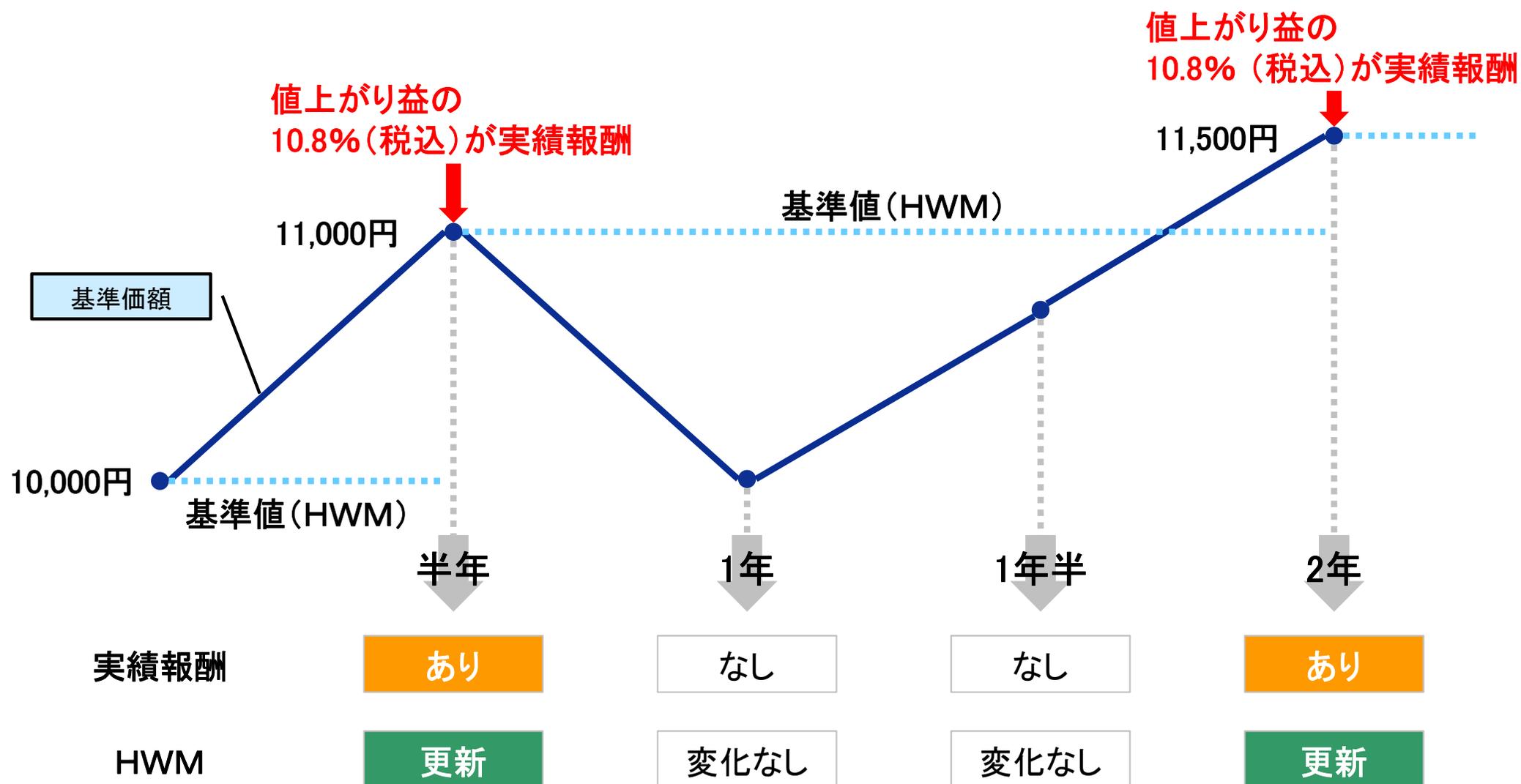
⇒ ハイ・ウォーター・マークは変更されません。ただし、決算時に収益分配が行われた場合には、ハイ・ウォーター・マークは収益分配金額を控除したものに調整されるものとします。

## ■実績報酬の留意点

・毎日の基準価額は、前営業日の実績報酬が費用計上された後の価額です。従って、解約される際に、解約時の基準価額から更に実績報酬が差し引かれるものではありません。

・実績報酬は、毎計算期末ごとにファンドから支払われますが、この場合も実績報酬は既に費用計上されていますので、更に実績報酬が差し引かれるものではありません。

# 実績報酬のイメージ



※ 上記はあくまでも実績報酬の理解を深めていただくためのイメージ図です。詳しくは交付目論見書をご確認ください。

出所: スパークス・アセット・マネジメント

本資料の最後に付記しております追記を必ずお読み下さい。

# 主な投資リスク、その他の留意事項

## <基準価額の変動要因>

当ファンドは、マザーファンド受益証券への投資等を通じて、株式などの値動きのある有価証券に投資しますので、ファンドの基準価額は変動します。

**従って、投資者の皆さまの投資元金は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元金を割り込むことがあります。ファンドの運用による損益はすべて投資者の皆さまに帰属します。また、投資信託は預貯金と異なります。従って、預金保険の対象外です。**

### (1) 株価変動リスク

一般に株価は、個々の企業の活動や一般的な市場・経済の状況、国内および国際的な政治・経済情勢等に応じて変動します。従って、当ファンドに組入れられる株式の価格は短期的または長期的に下落していく可能性があり、これらの価格変動または流動性に予想外の変動があった場合、重大な損失が生じる場合があります。

### (2) 超小型株式等への投資リスク

当ファンドの主要投資対象は、わが国の金融商品取引所に上場（これに準じるものを含みます）している株式のうち、時価総額において下位2%以下に属している銘柄を中心に投資します。こうした株式は、比較的新興であり、発行済株式時価総額が小さく、売買の少ない流動性の低い株式が少なくありません。その結果、こうした株式への投資はボラティリティ（価格変動率）が比較的高く、また流動性の高い株式に比べ、市況によっては大幅な安値で売却を余儀なくされる可能性があることから、より大きなリスクを伴います。

### (3) 信用リスク

組入れられる株式や債券等の有価証券やコマーシャル・ペーパー等短期金融商品は、発行体に債務不履行が発生あるいは懸念される場合には価格が下がることがあり、また、投資資金を回収できなくなることがあります。

### (4) その他の留意事項

#### ●システムリスク・市場リスクなどに関する事項

証券市場は、世界的な経済事情の急変またはその国における天災地変、政変、経済事情の変化、政策の変更もしくはコンピューター・ネットワーク関係の不慮の出来事などの諸事情により閉鎖されることがあります。このような場合、一時的に換金等ができないこともあります。また、これらにより、一時的にファンドの運用方針に基づく運用ができなくなるリスクなどもあります。

#### ●法令・税法・会計方針などの変更に関する事項

ファンドに適用される法令・税法・会計方針などは、今後変更される場合があります。

※ 基準価額の変動要因(投資リスク)は、上記に限定されるものではありません。上記は当ファンドの投資に係る様々なリスク等のうち、主なりリスク等について説明したものであり、全てのリスク等を網羅したものではありません。

# 主な投資リスク、その他の留意事項

## <その他の留意点>

- ・当ファンドのお取引に関しては、金融商品取引法第37条の6の規定(いわゆるクーリング・オフ)の適用はありません。
- ・収益分配金の水準は、必ずしも計算期間におけるファンドの収益の水準を示すものではありません。  
収益分配は、計算期間に生じた収益を超えて行われる場合があります。  
投資者の購入価額によっては、収益分配金の一部または全部が、実質的な元本の一部払戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がりが小さかった場合も同様です。  
収益分配の支払いは、信託財産から行われます。従って純資産総額の減少、基準価額の下落要因となります。
- ・当ファンドが主要投資対象とするマザーファンドを同じく投資対象としている他のベビーファンドを含めた資金によりマザーファンドの追加信託金が限度額に達すると委託会社が判断した場合には、当ファンドの購入申込受付は行いません。

## <リスクの管理体制>

委託会社では、投資リスクを適切に管理するため、運用部門ではファンドの特性に沿ったリスク範囲内で運用を行うよう留意しています。また、運用部門から独立した管理担当部門によりモニタリング等のリスク管理を行っています。

お申込みの際は、最新の投資信託説明書(交付目論見書)等を必ずご覧下さい。

# お申込みメモ／当ファンドに係る費用等／課税関係 他

信託期間	2015年9月30日から2025年7月22日まで 2015年9月30日設定	
決算日および 収益分配	年2回決算、原則毎年1月22日および7月22日(休日の場合は翌 営業日)とし、収益分配方針に基づいて収益分配を行います。 ※ 運用状況によっては分配を行わない場合があります。	
購入時	当初申込期間(2015年9月14日から2015年9月29日まで)	
	購入価額	1口=1円(当初元本)
	設定日(2015年9月30日)以降	
	購入価額	購入申込受付日の基準価額
換金時	購入単位	販売会社が別に定める単位 ※ 詳しくは販売会社までお問い合わせください。 ※ 信託財産の資金管理を円滑に行うため、1顧客1日当たり 1億円以上の購入申込には制限を設ける場合があります。
	換金価額	換金申込受付日の基準価額から信託財産留保額を控除した額
	換金代金	換金申込受付日から起算して、原則として7営業日目からお支 払いします。
その他	換金制限	信託財産の資金管理を円滑に行うため、1顧客1日当たり1億円 以上の換金申込には制限を設ける場合があります。
	【購入・換金申込受付の中止及び取消し】 金融商品取引所等における取引の停止、その他やむを得ない事情があるとき は購入・換金申込受付を中止することおよび既に受付けた購入・換金の申込受 付を取消す場合があります。	

購入時手数料	購入時の基準価額に、3.24%(税抜3.0%)を上限として販売会社が定める率を乗じた金額をご 負担いただくことがあります。
運用管理費用(信託報酬)	ファンドの保有期間中の期間に応じてかかります。
	日々の信託財産の純資産総額に対して年率1.8792%(税抜1.74%)を乗じて得た額とします。 [委託会社(税抜0.90%)、販売会社(税抜0.80%)、受託会社(税抜0.04%)]
実績報酬	基準価額がハイ・ウォーター・マークを上回った場合、当該基準価額と当該ハイ・ウォーター・ マークの差額の10.8%(税抜10%)を費用計上します。実績報酬は毎計算期末、解約時、償還 時に徴収します。
その他の費用、手数料 (運用状況等により変動するため、事前に料率、上限額等を示すことが出来ません。)	(1) 監査費用、目論見書や運用報告書等の作成費用等の諸費用 〔純資産総額に対し上限年率0.108%(税抜0.10%)〕 (2) 有価証券売買時の売買委託手数料等
信託財産留保額	換金申込受付日の基準価額に対して、0.5%の率を乗じて得た額をご負担いただきます。  <b>上記の費用、手数料等の合計額については、購入金額や保有期間等に応じて異なりますので、 あらかじめ表示することができません。</b>
委託会社、その他関係法人	委託会社 スパークス・アセット・マネジメント株式会社  受託会社 三菱UFJ信託銀行株式会社 (再信託受託会社:日本マスタートラスト信託銀行株式会社)  販売会社 委託会社までお問合せください。

課税関係・・・課税上は、株式投資信託として取り扱われます。個人の場合、原則として分配時の普通分配金ならびに換金時および償還時の譲渡益に対して課税されます。法人の場合は異なります。公募株式投資信託は税法上、少額投資非課税制度「NISA(ニーサ)」の適用対象です。

原則として、配当控除の適用が可能です。

税法が改正された場合などには、内容が変更になる場合があります。税金の取扱いの詳細については、税務専門家等にご確認されることをお勧めします。

※ お申込みの際には「投資信託説明書(交付目論見書)」を必ずご覧ください。

※ 2015年6月末時点

本資料の最後に付記しております追記を必ずお読み下さい。

- 当資料は販売用資料としてスパークス・アセット・マネジメント株式会社(以下当社)が作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。当ファンドの取得のお申込を行う場合には、投資信託説明書(交付目論見書)および目論見書補完書面をお渡ししますので、必ずお受け取りの上詳細をご確認いただき、ご自身でご判断ください。
- 当ファンドは値動きのある有価証券に投資しますので、基準価額は変動します。従って、元本が保証されているものではなく、組入れた有価証券の価格が下落する場合や、基準価額の下落により、損失を被り、投資元本を割り込む場合もあります。また、これらの運用による損益は全て受益者の皆様に帰属します。
- 投資信託は預貯金・金融債または保険商品ではなく、預金保険や保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。また、証券会社で購入した場合を除き、投資者保護基金の規定に基づく支払いの対象ではありません。
- 投資信託の設定・運用は、投資信託委託会社が行います。
- 当資料に記載の内容は将来の運用結果を保証もしくは示唆するものではありません。
- 当資料に含まれている過去の実績の数値および市場動向等についてのコメントは当資料作成時点のものであり、市場動向や個別銘柄の将来の動きを保証するものではありません。
- 当資料の正確性や完全性について当社が保証するものではありません。また記載内容は予告なく訂正が行われることがあります。
- 当資料は目的によらず、当社の許可なしに複製・複写をすることを禁じます。
- 当ファンドに関する投資信託説明書(交付目論見書)のご請求、お問合せは販売会社まで。

【お問合せ先】 スパークス・アセット・マネジメント株式会社

【ホームページ】 <http://www.sparx.co.jp/>

【電話番号】 03-6711-9200(受付時間:営業日の9:00~17:00)